

## 主との食事の交わり

レビ記三章

祭司はそれらを祭壇で焼いて煙にする。これは食べ物としての、主への火による献げ物である。(11)

神の恵みに対する感謝を表す会食のいけにえについて記されています。これは神と共に食卓を囲むという霊の交わりを意味します。このとき、食卓の主人は、献げ物をする私たちではなく、主なる神です。私たちが主を招いてご馳走するのではなく、主が私たちを招き、私たちに命の糧を与えてくださるのです。私たちは主によって養われる者たちです。これは主の晩餐と呼ばれる聖餐にも当てはまります。私たちは主に招かれてパンとぶどう酒をいただくことにより、キリストご自身にあずかります。私たちはキリストが与えてくださる霊の食物によって、人としての健やかさを保つことができるのです。毎週の初め、主は私たちに霊の糧を与えようと礼拝へと招いてくださいます。私たちはそれによって命が与えられる「礼拝に生きる神の民」なのです。